



2020年「県民暮らしのアンケート調査」結果について

百十四銀行（頭取 綾田 裕次郎）は、香川県民の暮らしや消費の実態・意識等を把握するために、「県民暮らしのアンケート調査」を実施しましたので、その結果をご報告します。

【調査概要】

調査対象	香川県内在住の20歳以上の男女
調査方法	インターネット調査（調査会社の登録モニターによる回答）
調査時期	2020年8月28日～9月3日
回答状況	有効回答数 530
調査委託先	一般財団法人 百十四経済研究所

県民暮らしのアンケート調査

(2020年8月実施)

香川県民の暮らし向きや消費の実態・意識を把握するために、「県民暮らしのアンケート調査」を実施した。

調査結果の概要

- I- 1. 現在の暮らし向き：「(やや)良くなった」と回答した人は、5.4%から4.8%に減少。
 「(やや)悪くなった」は、26.1%から28.4%に増加。
2. 暮らし向きがそうなったと思う理由：「悪くなった」と回答した人は、「収入の減少」が85.0%と最も多い。
- II- 1. 現在の収入：「(やや)増えた」と回答した人は、14.1%から7.9%に減少。
 「(やや)減った」は、29.2%から35.5%に増加。
2. 現在の物価：「(やや)下がった」と回答した人は、2.9%から2.3%に減少。
 「(やや)上がった」は、52.1%から59.8%に増加。
- III- 1. 特別定額給付金の使途：「生活費・支払い等」と回答した人は、51.3%と最も多い。
2. 宿泊割引制度の利用：「既に利用」と回答した人は、5.7%、「利用予定」が5.8%となり、「利用予定なし」「関心なし」が合わせて9割近くになった。

アンケート調査概要

1. 調査期間：2020年8月28日～9月3日
2. 調査対象：香川県内在住の20歳以上の男女
3. 調査方法：インターネット調査（調査会社のモニターによる回答）
4. 有効回答数：530人
5. 回答者の構成と属性

■年代別・性別

	計		男性		女性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
20歳代	75	14.2%	37	7.0%	38	7.2%
30歳代	95	17.9%	45	8.5%	50	9.4%
40歳代	128	24.2%	67	12.6%	61	11.5%
50歳代	108	20.4%	53	10.0%	55	10.4%
60歳以上	124	23.4%	62	11.7%	62	11.7%
合計	530	100.0%	264	49.8%	266	50.2%

■世帯全員の年収別

	人数	構成比
300万円未満	95	17.9%
300～500万円未満	128	24.2%
500～700万円未満	77	14.5%
700～1000万円未満	54	10.2%
1000万円以上	32	6.0%
答えたくない・わからない	144	27.2%
合計	530	100.0%

■世帯主の職業別

	人数	構成比
会社員	267	50.4%
公務員	54	10.2%
自営業	51	9.6%
パート、アルバイト	35	6.6%
専業主婦(専業主夫)	12	2.3%
無職	101	19.1%
その他	10	1.9%
合計	530	100.0%

■世帯の人員別

	人数	構成比
1人	79	14.9%
2人	156	29.4%
3人	145	27.4%
4人	108	20.4%
5人	32	6.0%
6人	8	1.5%
7人以上	2	0.4%
合計	530	100.0%

■住宅の種類別

	人数	構成比
持家(一戸建て)	364	68.7%
持家(マンション等)	49	9.2%
社宅	15	2.8%
借家	102	19.2%
合計	530	100.0%

(注)四捨五入の関係で内訳と合計が必ずしも一致しない場合がある。(以降、本文中の図表も同様)

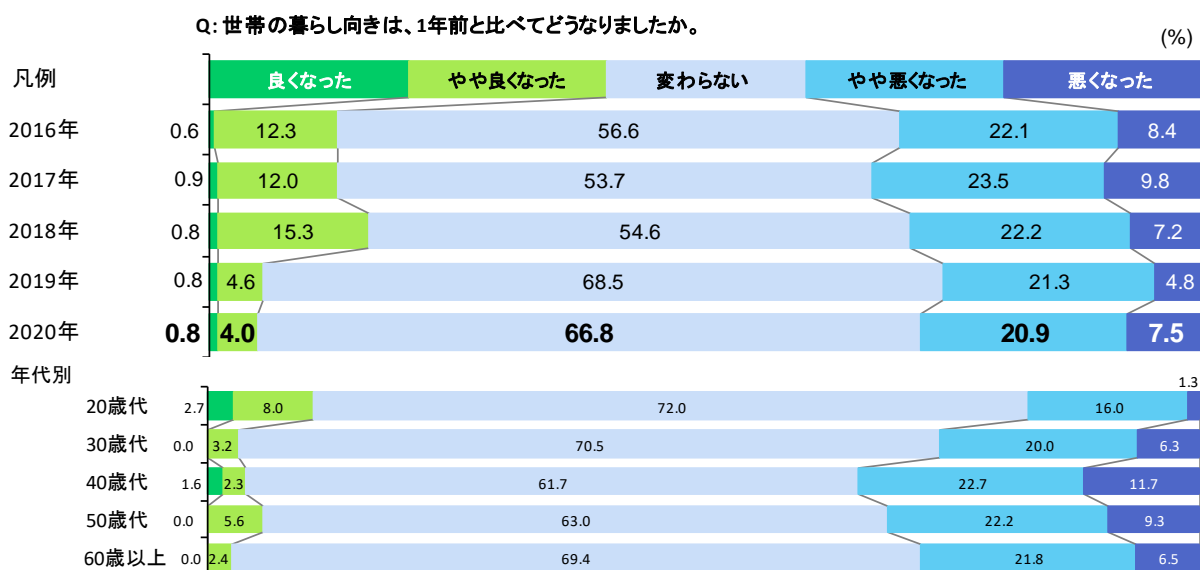
I. 世帯の暮らし向きについて

1. 現在の暮らし向き（1年前と比べて）

世帯の暮らし向きについて1年前と比較してどうなったか尋ねたところ、「良くなった」・「やや良くなった」と回答した人の割合は、昨年の5.4%から4.8%となり、0.6ポイント減少した。

「悪くなった」・「やや悪くなった」は、昨年の26.1%から28.4%となり、2.3ポイント増加した。暮らし向きが良くなっているとした人の割合が減少し、悪くなっているとした人の割合が増加している。

今回の調査では「(やや)良くなっている」とした人の割合が、過去5年間のなかで最も少なくなっている。

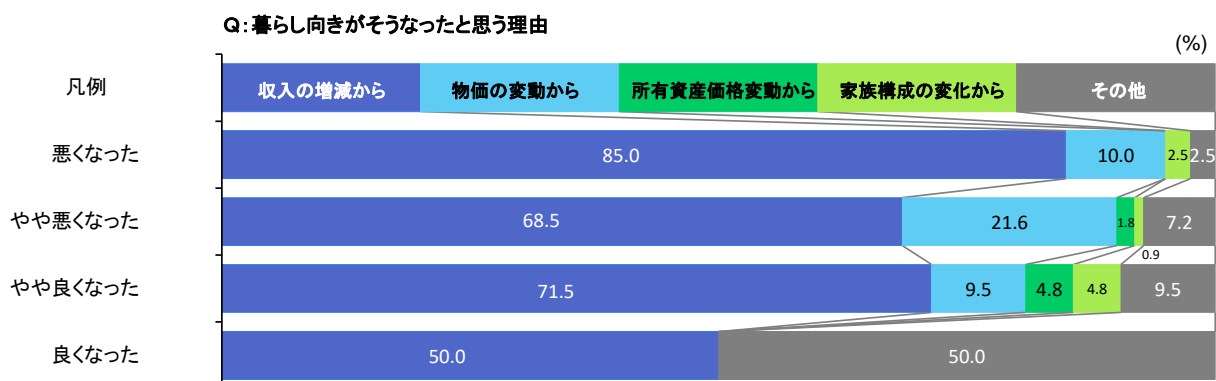


2. 暮らし向きがそうなったと思う主な理由

暮らし向きが「悪くなった」と思う理由は、「給与や事業・配当収入等の減少」が85.0%、「やや悪くなった」と思う理由は、「給与や事業・配当収入等の減少」が68.5%を占め、「物価上昇」が後に続く。

「良くなった」と思う理由は、「給与や事業・配当収入等の増加」が50.0%、「その他」が50.0%となった。「やや良くなった」と思う理由は、「給与や事業・配当収入等の増加」が71.5%を占め、「物価下落」が後に続く。

収入の増減が、暮らし向きに最も大きく影響する要因だといえる。

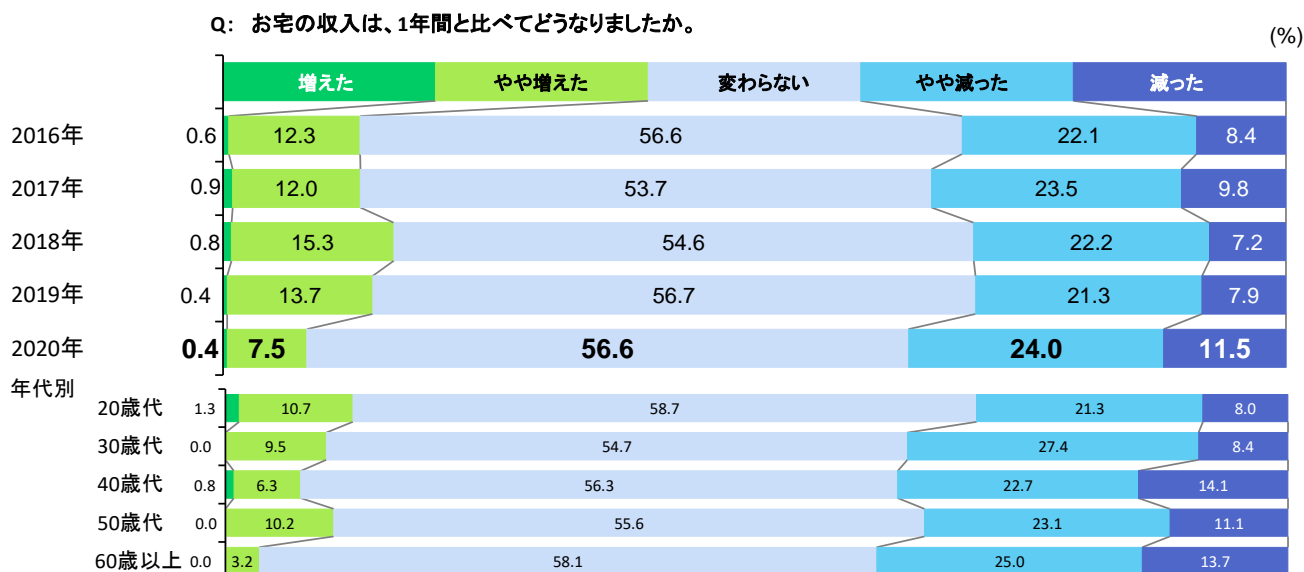


II. 世帯の収入・支出について

1. 現在の収入（1年前と比べて）

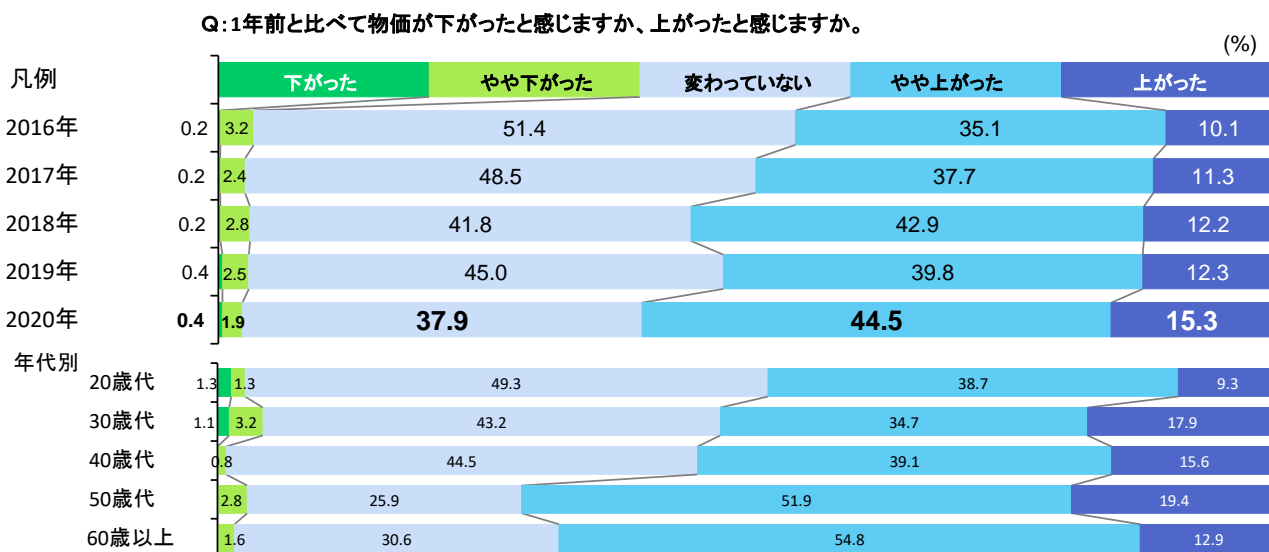
現在の収入について、1年前と比べてどうなったかを尋ねたところ、「増えた」・「やや増えた」と回答した人の割合は、昨年の14.1%から7.9%となり、6.2ポイント減少した。「減った」・「やや減った」とした人は、29.2%から35.5%となり、6.3ポイント増加した。

過去5年の動向では、「(やや) 増えた」とした人の割合が最も少なく、「(やや) 減った」とした人が最も多くなっている。



2. 現在の物価（1年前と比べて）

物価について尋ねたところ、1年前と比べて「下がった」・「やや下がった」と回答した人の割合は昨年の2.9%から2.3%となり、0.6ポイント減少した。「上がった」・「やや上がった」は、昨年の52.1%から59.8%となり、7.7ポイント増加した。



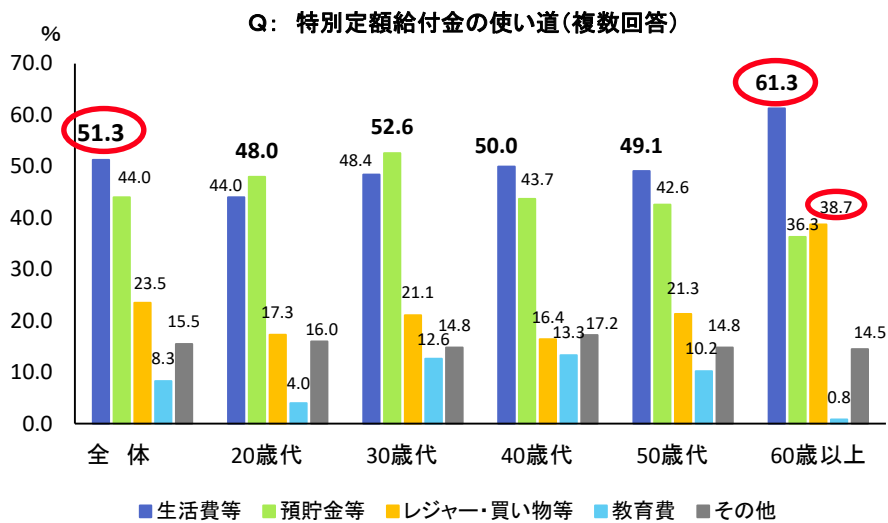
Ⅲ. その他

新型コロナウイルス感染症対策として、本年5月には家計への支援を目的に特別定額給付金事業が実施され、同じく7月から需要喚起を目的にGoToトラベルキャンペーン事業が開始された。

1. 特別定額給付金の使途

特別定額給付金を何に使ったか（または予定）を複数回答で尋ねたところ、全体では51.3%が「生活費等（生活費の補填・ローンの支払い含む）」と答えている。

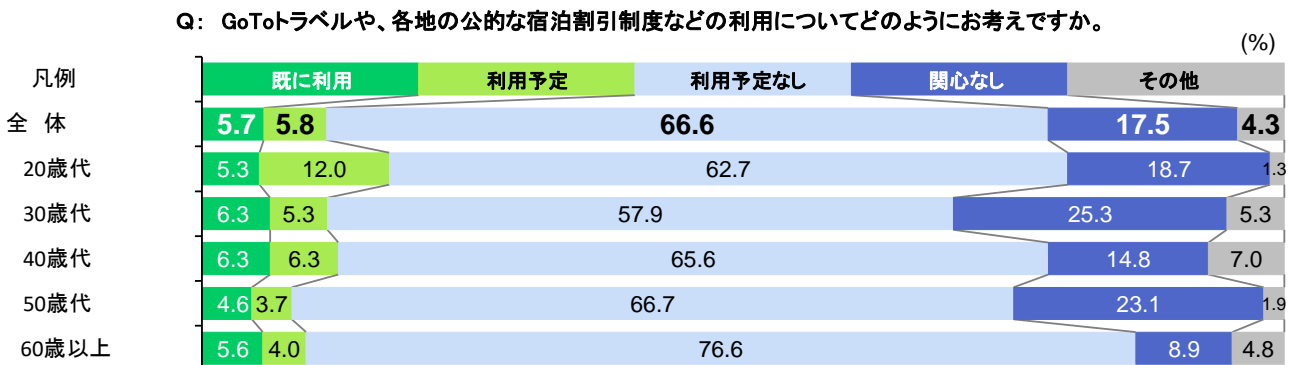
年代別でみると、20歳代・30歳代は「預貯金等」、40歳以上は「生活費等」の回答が多い。60歳以上になると、61.3%が「生活費等」、38.7%が「レジャー・買い物等」と答えている。特別定額給付金事業は、香川県内において一定の成果をあげたものとみられる。



2. GoToトラベルキャンペーン・公的宿泊割引制度の利用

GoToトラベルや、各地の公的な宿泊割引制度などの利用状況を尋ねたところ、「利用予定なし」が66.6%と最も多かった。「既に利用」は5.7%、「利用予定」は5.8%となった。「関心なし」「その他」を含めると調査時点（8月28日～9月3日）では、9割の人が利用（予定）していなかった。感染症への防衛意識が高かったことが窺える。

今後、新規感染者数が減少したり新たな需要喚起策が実施されたりするなかで、香川県民の意識や行動がどのように変化するか引き続き注視する必要がある。



(百十四経済研究所 村尾 耕太)